

<本ギャフを使いこなす為の必須9箇条>

- 1) 使用する前に必ずロープを扱き(シゴキ)ます(→シイラビデオ5出だし参照)。これを行う事により、ギャフ投下時にロープが纏れるのを低減できます。これをやった上で、ロープをジグザグに配置すると、ビギナーでもロープに関わるトラブルは起きづらい。
- 2) 必ずロープはリールを操作する手と同一の手で操作します(右ハンドルなら右手で、左ハンドルなら左手でロープを操作)。これをちゃんとやらないと本ギャフでのギャフ掛けは難しいものになります。リールを巻く必要が生じた場合は、ロープを掴んだその手でハンドルを握り(ロープとハンドルを同時に握る)、ハンドルを回します。逆にロープが出過ぎて、ロープを詰める必要が生じた場合は、(右ハンドルの場合)右手で引いたロープを、竿を持った左手のどれかの指(通常は人差し指又は親指)に引っ掛け、一時保持し、その先を右手で掴むことにより、ロープを詰めます。魚の状況に応じて、ロープの送り込み、ハンドル回し、そしてロープの詰めが行えるようになった時が本ギャフを使えるようになった時という事です。—此处でドラッグを締めてはダメ—
- 3) ギャフガイドのリール通過は、ハンドルを手前に位置させ、先にハンドルを通してから本体を通すとやりやすい。ガイド両端の小ループ部は安全環の両側に位置させ、ガイド内径+カラビナ内長寸の大径で通過させ、通過後、下側の小ループ部をカラビナの上側に移動し、ループを小径にする(小型魚のループ内通過を防ぐ為)。
- 4) ギャフを、竿上を落とす時は、竿先を横に傾け、竿先を大きく下げる。竿先を魚の動きと反対側に持っていくと余裕が生じ、大きく下げられる。ギャフがスムーズに落ちない時は、ロープを鞭のように波状に振ってやり、ギャフを叩き落とす。
- 5) ガイドが竿先を通過したら、竿先を必ず立てる。竿尻は最初から腹部に置き(脇下ダメ)、必ず竿を立てた状態でギャフを掛けに行く(自身の上半身も起こす)。竿を立てなければ、魚を引き付けられない。魚を浮かせて空気を吸わせ、弱らせて、ドラッグを引き出す力が無くなったと判断した時がギャフ投入のタイミング。ビギナーは概してギャフ投入が早すぎる。
- 6) ロープは合わせを入れる時のみ引っ張るが、それ以外は手を離す、落とす。ロープは常に十分すぎるくらい弛ませる。ロープを弛んだ状態にしておくことが肝要。ロープを張り気味にして、引っ掛けようという考え方は完全な間違いですから、やってはいけません。「アワセを入れてフッキングしなかったら、ロープを離し落とす」、これを繰り返します。弛んだ状態からアワセを入れます。ロープを掴んだままは絶対ダメ。「ロープを弛ませる」という事は前記2)で書いた、「ロープの送り込み、ハンドル回し、ロープの詰め」のうちの「ロープの送り込み」ができていているという事=ギャフが届いているという事です。
- 7) アワセについて;頭をこちらに向けている時や、立った姿勢ではギャフは掛かりづらい。又魚が向こうに突進している時もギャフは掛かりづらい(この時は既にギャフが離れてしまっていることも多い)。こちらに向いている魚が頭を反転させて向こうに向こうとする瞬間がギャフ掛けのベストタイミング、この時間髪を入れずアワセをいれる(0.1秒の瞬動)・・・躊躇しない。これで50%の確率でギャフは掛かります。何も分からない人は、肘を支点に、テナヤ釣りの要領で、揺り動かしてやると、そのうち勝手に魚は掛かります。
- 8) 魚を上げる時は、(右ハンドルの場合)右手でロープを引き、それを、竿を持った左手(竿は左手親指と各指の付け根で保持・・・これで小指、薬指、中指及び人差し指を開くことができる)の、開いた小指から人差し指までの間に入れ、竿と一緒にロープを握って引き、さらに右手を伸ばしてロープの下を掴む、

これで 10kg 位の魚迄上げられる。それ以上はベールを開いてラインをフリーにして(此れを怠るとギヤフが外れて魚が途中で落ちた時ロッドを失う事になる)、ロッドを置いて両手で引き上げる・・アワセをし
っかり入れれば、カエシが効いて、ギヤフは簡単には外れないので、ロッドを置いて大丈夫。

- 9) ギヤフの針先のチェックについて;本ギヤフはダブルフックである為、魚を上げる時、フックの片方は魚体
に食い込んでおりますが、もう一方のフックは外に出ていることとなります。上げる時や、上げた後魚
が暴れる事により、外に出たフックが、ガツガツと岩やコンクリに当たります。従って、一回魚を取り込ん
だら、必ず針先チェックをしなければダメです。チェック方法は、左手親指を立て、第一関節から先を内
側に曲げ、爪を水平にします。その爪に、右手で持ったギヤフの針先を垂直に当てます。その状態でギ
ヤフを横にスライドさせます。爪上をギヤフが滑ったら(=スライドしたら)ダメ→研ぐ必要があります。当
会ギヤフは全商品が爪に垂直に当てれば爪に刺さる様に出荷時点ではなっております。爪を滑るこ
とは有りません。柄で打ち込む通常のシャフト型ギヤフと、腰のないヘナヘナのロープで引き掛けるロー
プギヤフとでは、ギヤフにとっての困難性が全然違います。ロープギヤフの針先が丸くなってしまってい
てはどうにもなりません。細目のヤスリを釣り場の携行し、一回魚を取り込んだら、針先をチェックし、鈍
っていたら、その場で研ぐことが絶対必要です。